



富士吉田教育部 前田昌子 撮影

## 新任教授挨拶

富士吉田教育部 生化学 教授 荒田 悟



新年あけましておめでとうございます。

平成30年7月に昭和大学富士吉田教育部生化学担当として赴任しました。これまで本学共同研究施設において生命科学の支援と安全管理を担当してきました。今後は初年時の教育に尽力してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本年は平成から新しい元号に変わります。本学では今年11月10日に創立90周年の記念式典が開催されます。この機会に本学資料室を覗いてみました。創始者上條秀介先生の「真心をもって国民一人一人の健康を守るために孜孜として尽力する」、「一身の安きを求めず」という言葉を目にしました。「自分のことは後回しにしても国民の健康のために黙々と尽力する」、そのような精神が本学に受け継がれてきたことに接して身が引き締まる思いです。

本学は医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部で構成され、各学部の専門性を追求するとともに全学部が連携を密にする国内唯一の医系総合大学です。全学部の入学生が富士吉田校舎に集合して、寝食をともにして一年間学びます。医療現場や福祉施設などを体験する初年次・早期臨床体験実習などでは学部混合チームが結成されます。学部間の垣根を越えた教育環境において、個人の成長とチーム医療の第一歩が踏み出されることを実感しました。

科学の進歩は速く、新たな事実が明らかになるたびに細胞や生命の精巧な仕組みに感心させられます。しかし、いくら感心しても発見が尽きることはありません。全学部が会するこの機会に「生命科学」の面白さを学び、大いに議論して「科学の目」を持つ医療人として育つことを願います。また、感染症は医療現場や高齢者施設をはじめ、再び大きな問題になっています。個人や集団感染の予防としてスタンダードプリコーションの重要性、および安全管理の意識についても伝えていきたいと思います。

皆様のご指導とご鞭撻のほど宜しくお願ひ申し上げます。

### 広報は名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごと成長をたくて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

## 初年次 体験実習

### 在宅訪問実習



### 富士吉田だからこそできる実習

医学部医学科 中村 恵里 (共立女子中学高等学校出身)

9月に行われる初年次体験実習の一つに在宅訪問があります。在宅訪問は、富士吉田にお住まいの高齢者さんのお宅を訪ねて、その方の「人となり」を中心にお話を伺います。また公共交通機関を利用して訪問したり、周辺散策を行ったりすることで、その方の生活について身をもって考えることもできます。

私が伺ったお宅では、そのお宅の方だけでなくご近所の方も何人か来ていただいていたので、少し緊張していた私たちをととても優しくもてなしてくださり、訪問中、話が途絶えることなく賑やかな雰囲気でお話をすることができました。普段からよくご近所の方と集まってお話をされているそうで、それをとても楽しんでいらっしゃいました。住み慣れ落ち着いた環境である富士吉田をととても好んでいらっしゃることや、若い頃にされていたお仕事についてのお話などもお聞きすることができ、その方の価値観や、昔から現在にかけての生活について知ることができました。

将来向き合う患者さんは生活背景や価値観など個人により様々だと思います。在宅訪問を通して、人となりや生活背景をよく知り患者さんのことを考えていくことができる医療者になりたいという気持ちが強くなりました。

### 施設実習



### 施設実習を通して学んだこと

保健医療学部看護学科 小島 大樹 (静岡県立磐田高等学校出身)

初年次体験実習の施設実習では、前半の2日間をデイサービス愛歩里で、最終日は富士見サロンという地域のコミュニティーサロンで実習を行いました。

デイサービス愛歩里では、施設内の掃除、利用者さんとのお話、レクリエーションだけでなく、バイタルチェック、入浴介助や入浴後のケアまで体験をしました。富士見サロンは、基本的な生活動作ができる高齢の方々が利用され、地域の方との交流の場として施設を提供することが目的なので、バイタルチェックなどは行いませんでした。しかし、デイサービスを利用されている方よりもお元気な方が多く、活発なコミュニケーションをとることができました。

施設の方々は綿密に連携を図っていると感じました。さらに利用者さんのことを常に気にかけ、次に何をしようとしているのかを把握し、先を読んで動いていました。このような小さな気遣いがあるからこそ、利用者の方々も安心して職員の方に任せられるのだと思いました。

利用者さんとのコミュニケーションや利用者さんのために何ができるか考えていく職員の方の姿勢を見習い、将来、看護の現場で実践していきたいです。

私たちの実習を受け入れ、貴重な体験の機会を提供してくださった施設の職員の方々や利用者の方々にこの場を通じて御礼申し上げます。

### 初年次体験実習 病院実習を通して

歯学部 岩崎 菜月 (茗溪学園高等学校出身)

実習先の富士吉田市立病院では入院病棟、地域医療ケアセンター、放射線科、血液浄化センターなど様々な施設を見学させていただきました。私が見学した耳鼻咽喉科の病棟では話すことができない方が多く、非言語のコミュニケーションが非常に重要となる場面が多々ありました。看護師さんは複雑なコミュニケーションでは筆談をすることもあり、基本的に患者さんの様子から伝えたいことをくみ取って対応されていて、言葉を介さないコミュニケーションについて実習で学ぶことができました。地域医療センターでは、地域医療がなぜ必要なのか現場に立つ看護師長さんからお話していただき座学だけでは学べないことを教えていただきました。

今回の実習では、非言語のコミュニケーションについて実際の現場で学ぶことができ、コミュニケーションに対する自分の意識が改められました。また、治療は医師や歯科医師だけでは成り立たず、看護師や薬剤師などのコ・メディカルが連携して成り立っているものだと感じ、医療人としてこの輪に参加したいという思いが強くなりました。

実際に現場で活躍する医療の先輩方の姿を見て、医療人としての自分の将来像の形を思い浮かべることができました。ご指導いただいた富士吉田市立病院の皆さま、昭和大学の教職員の方々に厚く御礼申し上げます。

## 病院実習



### 薬学部学部別実習を終えて

薬学部薬学科 日昔 未来 (東京都立町田高等学校出身)

私たち薬学部は初年次体験実習で3日間かけて、薬局実習、植物介在療法実習、薬用植物観察実習を行いました。

薬局実習では、実際に調剤や服薬指導を行っている現場の見学、一包装・水剤の調剤体験、服薬指導のロールプレイング等を行いました。患者さんとしてではなく一医療人として薬局を見学し、普段とは違う光景に見え新鮮に感じました。また、様々な体験を通して、正確な知識と高いコミュニケーション能力の重要性を肌で感じる事ができました。次に薬局で実習を行うことができるのは高学年なので、とても貴重な体験になりました。

植物介在療法実習では、植物の観察とアロマセラピーを行いました。植物を細部まで見る事ができ、また、アロマセラピーの効果について学ぶことができました。

薬用植物観察実習では、生薬のデッサンとキャンパスにある自然植物園での植物探しを行いました。前期の「漢方薬になる動植物」の講義で学んだ植物に関して、植物そのものの理解、また植物に関する用語の理解を深めることができました。

実習全体を通して、新しく得たもの、再確認できたことがたくさんありました。多くの場面で刺激を受けることができ、薬学生としての一つの取り組みに対する意欲が一層高まったと感じています。今回学んだこと感じたことを忘れずにこれからの学習に励んでいきたいです。

## 学部実習



## 吉田の火祭りに参加して

富士吉田教育部 講師 前田 昌子

8月26日富士吉田で開催された吉田の火祭りに参加しました。富士吉田の教員、事務職員だけでなく、旗の台からも多くの職員が参加しました。毎年8月26、27日に行われるこの祭りは北口本宮富士浅間神社と諏訪神社により執り行われる神事で、富士山の山じまいを告げるものです。400年以上前から続き、日本三奇祭ともいわれる勇壮な祭りです。



「火祭りの日は雨が降る」との地元の言い習わしをよそに、今年は快晴！18時を過ぎると、見事な紅富士も現れ、坂の上から子ども神輿3基、神輿2基がスタート。紅富士をかたどった神輿が目の前を通過する時には黒く浮かぶ夏の霊峰と並ぶベストショット。



神輿が通過すると我々は一斉に土を盛り、松明(たいまつ)を立てる土台を作ります。この松明を立てる場所は道路に加工が施されており、年に1度活躍する丸い舗装がいます。土台が出来上がると世話人と呼ばれる男性たちが現れ、瞬間に3メートルの松明を立てていきます。その間も坂下から順に火がともり、昭和大学の松明も小口理事長により点火されました。

今年は大小合わせて96基の松明が立ち、すべての松明が灯る頃は肌寒かった周囲の空気にも熱気が伝わり、さらに祭りの夜を熱くしていきました。



## 富士五湖薬剤師会 第6回市民公開講座



富士吉田教育部 教授 平井 康昭

10月14日(日曜日)の午後、富士吉田市民会館にて富士五湖薬剤師会主催の「第6回市民公開講座」が開催されました。私は薬剤師会の広報活動委員を拝命していることから、学生にボランティアをお願いしたところ、薬学部生8名、看護学科生1名が快く引き受けてくれました。当日は複数のイベントが重なったこともあり、駐車場は大混雑

## 富士登山競走救護ボランティア

### 「富士登山競争」

富士吉田教育部 講師 小林 広和

2018年7月27日に、富士吉田市主催の「富士登山競争」が例年どおり行われました。今年で71回目となったこの大会ですが、昭和大学からは毎年多くのSIが救護ボランティアとして参加しています。今回も、学生・教職員合わせ、60名強が活動を行いました。部活の合宿等に利用する昭岳舎を6時に出発したのち、バスで富士山五合目に向かい、そこから各中継点に分かれて救護支援を行いました。この日、大学付近は小雨模様でしたが、雨雲を抜けた後の富士山の中腹は大変天気がよく、素晴らしい眺めでした。

コースは富士吉田市役所をスタートとし、山頂まで向かうルートと五合目までのルートの二つがありますが、どちらの参加ランナーもたいへんスピードが速く、その体力と身体能力に驚かされました。現地には市内の病院の救急救命士や看護師の方々、および他大学の救護ボランティアの方々もいらっしゃり、他機関の医療従事者の方々との接する貴重な機会となりました。五合目まで必死で駆け上がった女性ランナーが呼吸困難に陥って倒れ込み、救護スペースで苦しそうな表情で酸素吸入などの手当を受けている場面が今でも脳裏に焼き付いています。高地医療に間近に触れることを通し、現場の緊迫感とその重要性を実感することができました。自分たちの医療に対する考えを新たに、これからも励んでいければと思います。



## 大盛況「ありんご祭り」

歯学部歯学科 清水 美咲 (静岡サレジオ高等学校出身)

秋の透き通った空が広がる晴天の中、「ありんご祭り」が開催され、多くの来場客で賑わいました。私たち学生は屋台ブースをそれぞれ担当し、利用者さんと一緒に焼き鳥やフランクフルトなどの飲食販売を行いました。

また、毎週水曜日に大学生協前で販売される大人気の手作りケーキも販売されていて、そのカフェには一段と多くのお客さんが集まっていました。私も利用者さんとお昼休憩の時に、そのケーキを美味しく頂きました。

その他にも歌のステージや抽選会も繰り広げられ、終始笑顔と活気の絶えないお祭りになりました。

午前中から昼過ぎまでのお祭りでしたが、あっという間に感じるほど楽しんで参加することができました。施設の理事長さんが反省会の際に私たち学生にお話をしてくださいました。その中で「医療と福祉の道は大変ですが、それ以上にやりがいと面白さに満ちています！将来皆さんも楽しんで医療に従事してください。」という言葉が私の心に留まりました。理事長さんだけでなく、施設のスタッフさん全員が明るく笑顔に満ちている姿が非常に印象的で、理事長さんのメッセージの通り、皆さんが心から楽しんで仕事をなさっていることに感銘を受けました。私も将来、患者さんと心から向き合い、自分の仕事を楽しめるような医療人になりたいと思いました。



障がい者の方との心からの交流の仕方、更には医療人としての心構えを学ぶことができる実りあるボランティアになりました。

でしたが、学生の手際の良い誘導により混乱を避けることができた。

公開講座が始まる頃にはお手伝いも一段落し、学生たちは当日の演者である理学療法士で落語家の日向亭 葵 氏の、「転倒しない三つの習慣！～エアリハで姿勢を整え介護予防～」という御講演を聞かせていただきました。

公開講座が終わった後は駐車場の後片付けをお手伝いし、薬剤師会が用意くださった天井をご馳走になってから、スクールバスで富士吉田校舎に戻りました。

富士五湖薬剤師会の先生には、初年次体験実習や5年生の地域医療実習でお世話になるばかりでしたが、市民公開講座のお手伝いをすることで少しでも日ごろの恩返しのできたような気がします。学生の皆さん、お疲れ様でした。

## Mt.Fuji 河口湖ジャズフェスティバル2018

### ならではの良さ

歯学部歯学科 犬塚 夕貴 (白陵高等学校出身)

私は先日、河口湖円形ホールにて開催された「Mt.Fuji 河口湖ジャズフェスティバル」にボランティアとして参加しました。活動内容としては地域のボランティアの方々とともに出店のお手伝い、賄いのカレーや焼きそばの盛り付け、案内係などでした。

河口湖周辺の木々も赤や黄色に色づく中、円形ホールでは三日間にわたってジャズフェスティバルが開催されていました。ホールは100人程の少人数規模でありましたが、中からは常にジャズの演奏が流れ、ホールの外で秋の紅葉を楽しむ観光客の方々にもジャズが感じられる空間となっていました。

観光客は日本人だけでなく外国人の方々も多く訪れており、外国人の観光客の方とお話する機会もありました。また、私たちは仕事の合間に地域のボランティアの方にボードに乗せてもらい河口湖を一周したり、山梨でとれたぶどうを使ったジュース、ワカサギのフライを頂いたりと河口湖ならではの体験もたくさんさせていただきました。

今回のボランティアでは山梨ならではの良さ、日本ならではの良さを感じられた貴重な体験になりました。その土地の良さや伝統は守っていかなければならないと強く感じる一日を過ごせたと思います。



## ジャック・オー・ランタン作りに参加して

薬学部薬学 落司 理恵子 (江戸川学園取手高等学校出身)

ジャック・オー・ランタン作りは初めての経験で、始まる前からワクワクしていました。3日間に渡り作業を行いました。かぼちゃを収穫するところから始まり、色や形の違うかぼちゃを多く収穫することができました。かぼちゃを彫る作業は思っていたよりも力のある作業で、1つ仕上がる度に達成感を味わうことができました。次第に難しい凝った作品を作りたいと思い、時間も忘れるほど夢中にかぼちゃを彫っていました。自分以外の人たちも凝った作品をたくさん作っていて、思わず写真を撮りたくなるほどでした。

最終日は完成した作品の飾り付けを行いました。飾り付けはどの作品をどこに置いたら良いのかなどをみんなで話し合いながら、楽しく進めることができました。自分たちが作った作品が並んでいるのを見て、やって良かったと心から思いました。作業は大変でしたがみんなで楽しく、完成度の高い作品を作ることができ良い思い出になりました。



## クラブ活動報告 全日本歯科学生総合体育大会 来年に向けての覚悟

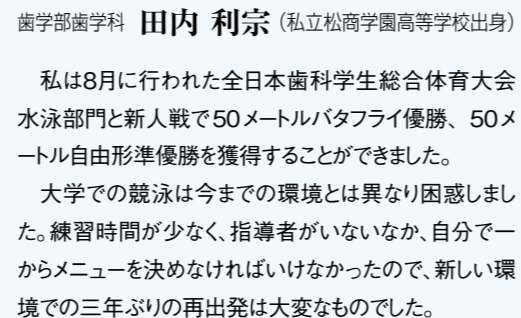
歯学部歯学科 田内 利宗 (私立松商学園高等学校出身)

私は8月に行われた全日本歯科学生総合体育大会水泳部門と新人戦で50メートルバタフライ優勝、50メートル自由形準優勝を獲得することができました。

大学での競泳は今までの環境とは異なり困惑しました。練習時間が少なく、指導者がいないなか、自分一人からメニューを決めなければいけないので、新しい環境での三年ぶりの再出発は大変なものでした。

コンディションが悪い中、出場した大会で優勝できたのは入学当初から氣遣ってくれたやさしい先輩たち、一緒に練習した仲間の期待に応えたいという気持ちからでした。本当にありがとうございます。

来年はその人たちに自分が活躍することで恩返ししたいと思っています。来年の目標としては全日本歯科学生総合体育大会水泳部門の男子優勝、インカレに出場することです。学業との両立は大変だと思いますが、やらずに後悔したくありません。目標達成のため一日一日の練習の内容を濃くしていきたいと思います。



## 国際交流/ポートランド州立大学サマープログラム 実践の意義と積極性

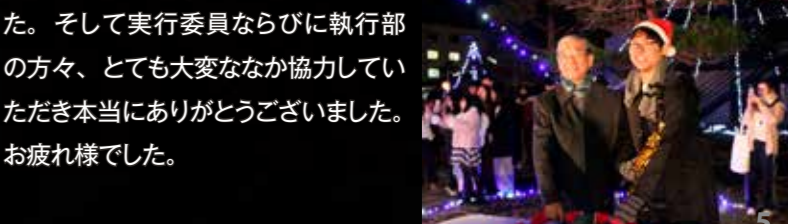
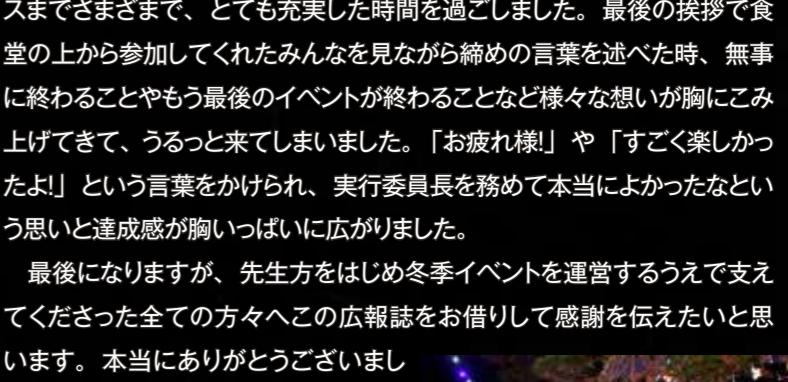
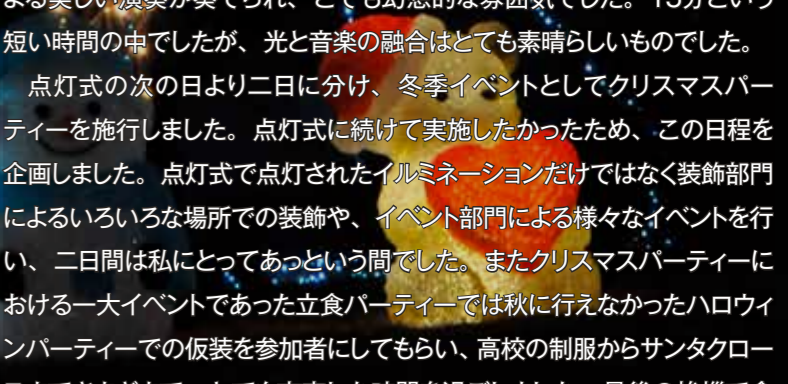
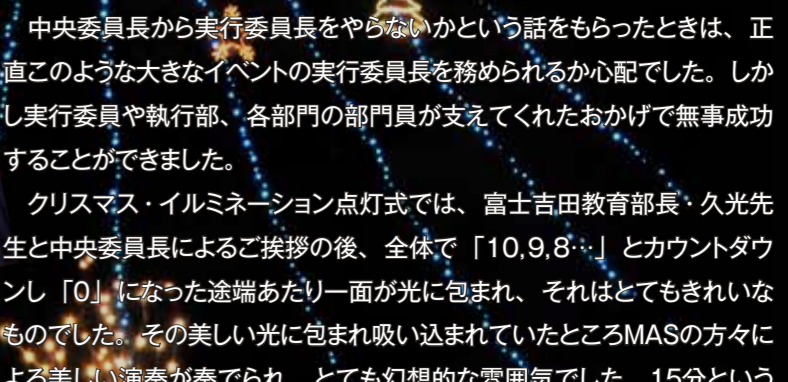
薬学部薬学科 三輪 明日香 (横浜翠陵高等学校出身)

今回のPSUサマープログラムは私にとって初めての海外研修でした。はじめは英語でうまく話せないかもしれないという気持ちから不安でいっぱいでした。しかし実際は、この研修が始まって3日目には、1年間アメリカにいたいと思うくらいに不安は消えていました。私が一番自分の成長を感じたのは、ホームステイでの2週間です。私は渡航前にコミュニケーションを積極的にとることを目標に掲げていたので、ホストの会話に積極的に参加しました。会話を通して、よく出てくるフレーズや文法などを身につけることができ、また言い方に困った時のもどかしい気持ちが英語を勉強する意欲につながりました。研修後半では、英語でプレゼンテーションができるようになるほど成長しました。実践が一番の勉強法であるということを感じた2週間となりました。

さらに、私はアメリカの文化から積極性の大切さも学びました。アメリカでは自分の意志を明確に示すことが重要で、はじめは戸惑いもありましたが、徐々に慣れていきました。スポーツ観戦や川下りなど様々なプログラムに積極的に参加し、本当に充実した時間を過ごすことができました。積極性はアメリカにおける大切な文化ですが、私は日本においても必要な技能であると考えています。これから医療人になる身として、積極的に行動をして問題解決へと最善を尽くす姿勢を目指すにあたり、今回の研修は全体を通してとてもいい経験となりました。



大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。



## 平成最後の冬に吉田で最後のイベントを終えて

薬学部薬学科 本沢 駿弥 (日野台高等学校出身)

今年は11月30日に点灯式、12月1日、2日にクリスマスパーティーが行われました。

中央委員長から実行委員長をやらなにかという話をもらったときは、正直このような大きなイベントの実行委員長を務められるか心配でした。しかし実行委員や執行部、各部門の部門員が支えてくれたおかげで無事成功することができました。

クリスマス・イルミネーション点灯式では、富士吉田教育部長・久光先生と中央委員長によるご挨拶の後、全体で「10.9.8」とカウントダウンし「0」になった途端あたり一面が光に包まれ、それはとてもきれいなものでした。その美しい光に包まれ吸い込まれていたところMASの方々による美しい演奏が奏でられ、とても幻想的な雰囲気でした。15分という短い時間の中でしたが、光と音楽の融合はとても素晴らしいものでした。

点灯式の次の日より二日に分け、冬季イベントとしてクリスマスパーティーを施行しました。点灯式に続けて実施しかなかったため、この日程を企画しました。点灯式で点灯されたイルミネーションだけではなく装飾部門によるいろいろな場所での装飾や、イベント部門による様々なイベントを行い、二日間は私にとってあっという間でした。またクリスマスパーティーにおける一大イベントであった立食パーティーでは秋に行えなかったハロウィンパーティーでの仮装を参加者にしてもらい、高校の制服からサンタクロスまでさまざま、とても充実した時間を過ごしました。最後の挨拶で食堂の上から参加してくれたみんなを見ながら締め言葉述べた時、無事に終わることやもう最後のイベントが終わることなど様々な想いが胸にこみ上げてきて、うるっと来てしまいました。「お疲れ様！」や「すごく楽しかったよ！」という言葉がかけられ、実行委員長を務めて本当に良かったという思いと達成感が胸いっぱいになり広がりました。

最後になりますが、先生方をはじめ冬季イベントを運営するうえで支えてくださった全ての方々へこの広報誌をお借りして感謝を伝えたいと思います。本当にありがとうございます。そして実行委員ならびに執行部の方々、とても大変なご協力いただき本当にありがとうございました。お疲れ様でした。